

犬猫の肥満

近年、家庭で飼育されている犬、猫の太りすぎ、肥満が増えています。あるペットフードメーカーの調査によると、動物病院に来院する犬の50%、猫の45%が太りすぎであるとの結果が出ています。

野生の条件下で暮らしている、いぬ科ねこ科の動物には肥満という現象は見られませんし、人が生活するのにゆとりのない地域で暮らすこれらの動物にも太りすぎは非常に少ない現象です。犬、猫の太りすぎ、肥満は人間社会が動物に与えたありがたくないプレゼントだと言わざる得ません。

犬、猫の適正体重に関して5段階のスコアに分類したボディ・コンディションがあり、これによれば

スコア1：不健康 体脂肪がない。

スコア2：痩身 明らかに体脂肪が少ない。

スコア3：最良 肋骨は外見からわからないが、触るとわかる。

スコア4：体重過多 肋骨は外見から見ても触ってもわからない。

スコア5：肥満 大量の皮下脂肪がつき明らかに無気力と分類されています。

適正体重として、書籍に記載されているスタンダードの体重にご自分の動物をあてはめて考える人がいます。同じ犬種でもかなり大きさに差がありますし、骨量の多い子は見かけよりも体重があるということもあります。適正体重は体重Xkgという数字にとられるより、このスコアを参考にしたほうがよいでしょう。さあ、お宅のワンちゃん、猫ちゃんの皮下脂肪はいかがですか？

さて、以上のことを念頭において、肥満と健康の関係について少しお話ししましょう。

太った動物たちは見た目愛くるしいものです。が、それ以外には太っていることの利点はなにひとつありません。それどころか百害あって一利なしと言ってよいほどです。



肥満により発生する害を列記してみましよう。

<犬>

1. 循環器障害
2. 多量の皮下脂肪により気道が狭くなる為に暑さに対応し難くなる。
熱中症を引き起こしやすい。
3. 四肢の関節に負担がかかるために、関節の故障を起こしやすい。
4. 脂肪肝をひきおこす。
5. 皮膚病を起こしやすい
6. 特にメスで外陰部が不潔になりやすい為に尿路疾患をおこしやすい。

<猫>

1. 犬と同じく下部尿路疾患を引き起こしやすい。
 2. 肝リピドーシス、糖尿病を発症する可能性が高まる。
 3. 腹部の脂肪の為触診が困難になり、診断がしにくくなる。
又処置もし難くなる。
 4. 手術時のリスクが適正体重の動物より高くなる。
- 等等、枚挙に暇がありません。

犬、猫の予防医学、医療の向上、飼育環境の改善によりペット達の寿命は一昔まえに較べると随分延びています。グッドコンディションのペット達と 10 数年快適な時間を共有する為には、肥満は最大の敵なのです。

さて、では適正体重を維持するにはどうしたらよいのでしょうか。

健康的な動物では、摂取カロリーと消費カロリーのバランスが取れていれば、肥満も痩せも起こりません。摂取カロリーが消費カロリーを上回ると、肥満は起こります。単純明快な理由です。

消費カロリーは各個体の基礎代謝率、運動量などの飼育環境により個体差があります。去勢、避妊手術の有無、などの要素により個体それぞれの基礎代謝率は違います。基礎代謝率の差は消費カロリーの差に反映されます。

例えば一番皆さんご存知なのは、去勢、避妊手術をすると太りやすくなるということです。これは、手術をすることにより基礎代謝率がさがり、消費カロリーも低下する為です。当然対象となるペットの摂取カロリーも下げてあげなければなりません。

ペット達は冷蔵庫を自分で開けることはできません。そうです、飼い主さんがしっかりした意志をおもちになり、まちがっても必要な栄養素を含みバランスのよい食事、以外の食べ物で摂取カロリーを増やすことがないように食事管理をしてあげましょう！

繰り返し申し上げます。肥満は万病の元、健康の最大の敵、ペットは冷蔵庫、お菓子箱を自分で開けることはできません。飼い主さん頑張りましょう！

